

2020年11月17日(火) 鳥羽 イワシの泳がせ釣り 功成丸
中潮:旧10/3 満潮07:34(219cm) 干潮13:11(90cm) 満潮18:39(203cm) 鳥羽
ハマチ 42cm 5尾

11時30分 集合・釣り座抽選・出船
13時11分 干潮(鳥羽90cm)
18時00分 沖上がり

【料金】 乗り合い 12,000円 餌込み 氷付き 釣り座は抽選

【仕掛け等】 根掛かりを考えて仕掛け・おもりを用意した。

自作仕掛け 6セット作製

同船者とのお祭り、掛かった魚が飲み込んでいる等の理由から6セットすべてを使用した。

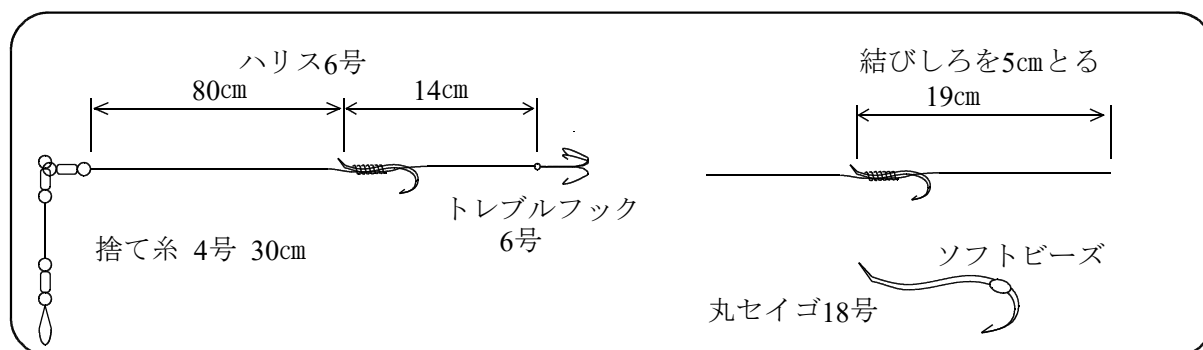
おもり 60号80号 終日60号を使用

今日は潮が動かなかった。潮が動かない時は60号を使用ということ。

竿受け イワシ用網 魚を絞めるためのナイフ・ゴム手袋

【自作仕掛け】

○リーダーが5号1ヒロ付けてあるため、幹糸なしの仕掛けを作った。(結果として、これでよいと感じた。)



○お祭りしようと、魚が飲み込もうと、結果的には、鉤がハリスに結んであるものさえあれば、仕掛けを簡単に作り直すことができる。仕掛け全体をたくさん持っていく必要はない。

【様子】

○天気は晴れ。白波が少し立っていた。

○くじは最後から2番目だった。右舷胴に入った。

○「おもりは60号を用意しておいて」とアナウンスがあった。水深は50mくらいだった。

○しばらくしてハマチを釣ったが、当たらない。

○前回、ペテランさんから教えてもらった誘いを試してみた。

「誘うときは竿をグーッと持ち上げて10秒ぐらいそのまま待つ。その後、その位置で10回くらいリールを手で巻いて仕掛けを上げる。そして、サミングしながら底まで落とす。その間に青物が食ってくるかもしれない。」

○竿を持ち上げたとき、餌のイワシがぐるぐる回ってしまったのだろう、ハリスがくしゃくしゃになっていた。そこで次のようにしてみた。竿を持ち上げるのではなく、電動リールで巻き上げてみた。

※当たらないと感じたら、一番遅いスピードで3m巻き上げてしばらく待つ。当たりがなければ、さらに3m巻き上げて(底から6m上で)、しばらく待つ。

- 底から6m上で待っていると当たりがあった。ハマチだった。
- 同様にやっていると、やはり底から6m上でハマチが釣れた。
- 底から3m上で待っても当たりはなかった。ベテランさんの「竿をグーッと持ち上げて10秒ぐらいそのまま待つ」を再現するには、「電動リールで2m巻き上げて10秒ぐらい待つ」とした方が良かったかもしれない。以上のことから、誘いは次のようにしてはどうだろうか。

※当たりがないと感じたら、一番遅いスピードで2m巻き上げて10秒ぐらい待つ。当たりがなければ、更に4m(底から6m)巻き上げて待つ。当たりがなければ、サミングしながら底まで落とす。
 ※“一番遅いスピード”で巻き上げるとしたが、電動リールでの巻き上げで誘うわけだから、もう少し速い方がよいのかもしれない。

- 「潮が流れない」と船長が何度もつぶやいている。潮が流れないと魚の喰いが立たない。しかし、潮が動き出したときにチャンスがあるはず。
- 「移動します」とアナウンスがあった。移動して一投目。すぐに当たりがあった。合わせてしまった。前当たりで合わせてしまった。今日は、「長く待とう」と思っていたのに…。
- 振り返ってみると、ヒラメらしい当りはこれ一回だけだった。
- 夕まずめになった。ウタセ真鯛釣りでも夕まずめは底で釣るということから、底で待っていた。左隣の方がハマチを釣った。自分にも当たりがあった。ハマチだった。
- 今日の目標は、ヒラメを含め5尾釣ることが目標だった。残念ながら、ヒラメは釣れなかった。

【次回に向けて】

- 仕掛けは一人2セット、ハリスに鉤、孫鉤をつけたものを一人4セット準備する。
- 前述の枠のように誘う。
- 「自分は当たりが3回くらいあったのち、次の大きめの当たりで合わせていた。ベテランさんに合わせが早いと言われた。」 当たりがあっても確実に飲み込むまでじっくり待つこと。
- 波が高いときは餌が安定するようにおもりを底につけておく。ハリスを長くするという方法もある。波がないときは根掛かりしないようにおもりを底から少し上げておく。